

A・G・デウェイ著

『ジャワの農民市場』

Alice G. Dewey, *Peasant Marketing in Java*, The Free Press of Glencoe, New York, 1962, 238 p.

I

戦後のインドネシア研究はアメリカの大学を中心とした研究者によって、政治、経済、社会の分野において注目すべき成果が発表されている。この成果のなかに戦前のオランダ人の研究にみられなかった新しい仮説を立てた C. Geertz を中心とした社会人類学、G. McTurnan Kahin を中心とする政治学の分野においてその成果は特に注目すべきものがある。

ここに紹介する Alice G. Dewey の研究は C. Geertz を中心とした社会人類学グループの実体調査に基づく共同研究の一部をなすものである。したがって Dewey の業績を紹介するにはそのグループの指導的役割を果たした C. Geertz とその同僚の業績を紹介することが必要である。それから Dewey の研究のこのグループにおける位置と意義についてのべることにする。

II

Dewey の研究は昨年発表されたが、彼女の所属した C. Geertz とそのグループの研究は 1952年から1954年にかけて行なわれたものである。

このグループの研究は Massachusetts Institute of Technology の The Center for International Studies の企画の一つである。C. Geertz 等は Harvard 大学の出身者で、これに Yale 大学の人類学的言語学者 R. S. Hendon 教授が参加し、チームを編成したのである。

現地調査はこのグループが1952年11月に Java に到着し、1954年7月に帰国するまでの1年8カ月行なわれた。この間、最初の6カ月はインドネシア語の知識の完成とジャワ語の学習と調査地点の選択のために費され、1953年6月に中部ジャワの一小都市——すべての論文で Modjokuto と仮称されている——が選択され、一行がここに居を移して、多数の informants を使ったの現地調査が行なわれた。

この現地調査団の構成は、

Rufus S. Hendon 言語人類学専攻 (Yale 大学)

Clifford Geertz 宗教組織
Hildred Geertz 家族制度
Donald Fagg 小都市の政治構造ならびに階級構造
Edward J. Ryan 華僑社会
Robert R. Jay 村落社会
Alice G. Dewey 農民の市場取引

これらの6人の人は Harvard 大学の出身者である。

この現地調査の報告は、はじめ Mimeo 様式あるいは雑誌論文として発表され、最近にいたって正式出版として次の三つの文献が公表された。

1. Clifford Geertz, *Religion of Java*, The Free Press of Glencoe, New York, 1961.
2. Hildred Geertz, *The Javanese Family*, The Free Press of Glencoe, New York, 1962.
3. Alice G. Dewey, *Peasant Marketing in Java*, The Free Press of Glencoe, New York, 1962.

これらの成果はいずれもきわめてすぐれたもので、特に C. Geertz の分析は、ジャワ人社会における回教信仰からみた社会階層分析の仮説として、現在のジャワ人社会の政治、経済構造の分析に必ず使われる Abangan, Santri および Prijai の三つのカテゴリーをたてた。C. Geertz のこの考え方は、Max Weber の宗教社会学において試みられた宗教倫理と経済倫理との関係を、三つのジャワ人社会における主要な宗教的・文化的社会集団について考察したのであった。C. Geertz は Abangan の信仰は、回教渡来以前のアニミズム、仏教およびヒンズー教が回教と混合したものであり、この信仰をもつものはかろうじて自給自足的農業を維持する農民の集団と規定している。また Santri は回教に対して敬虔な信仰態度をもち、回教近代主義の影響を受け、経済合理主義に適應し、商業貿易に従事している集団であると規定している。さらに Prijai は宗教的には Abangan のような Java Islam ではなく、また Santri のように純粹の回教に近い信仰の持主ではなく、多分にヒンドウ的要素の強い回教信仰をもっていた。かれらは社会的身分としては Raden, Raden Mas のような種々の称号をもつ貴族出身者であり、Abangan, Santri より高い旧封建支配階級であった。かれらの経済的基礎は政府官僚としての地位、権力のなかにあった。

ジャワ人社会における宗教的信仰と経済的行動の間に一定の相互関係を発見することに成功したことは、C. Geertz の社会学的アプローチの一つの成果として、現在の段階で高く評価されている。

C. Geertz の主論である *Religion of Java* が1962年に刊行されるまでにかかれは、

1. *The Development of the Javanese Economy: A Socio-Cultural Approach*, M. I. T., 1956, 136 p. (MIMEO).
2. *The Social Context of Economic Change: An Indonesian Case Study*, M. I. T., 1956, 179 p. (MIMEO).
3. "Religious Belief and Economic Behavior in a Central Javanese Town: Some Preliminary Considerations", *Economic Development and Cultural Change*, Vol. IV, No. 2, Jan. 1956, pp. 134~158.

等を発表している。A. G. Dewey その他このグループの人の研究を取りあげる場合、一応レファレンスされなければならない研究である。

このグループの成果は C. Geertz 夫人の Hildred Geertz の "The Family of Java" のほかにも Robery R. Jay の論文としては Harvard 大学博士論文として提出された、"Santri and Abangan: Religious Schism in Rural Central Java" 1957 がある。Jay はこのほか *Village Life in Java* および "Local Government in Rural Central Java," *Far Eastern Quarterly*, Feb. 1956, pp. 215~227. 等の業績がある。

III

以上のようなグループ研究の一環としての Alice G. Dewey の *Peasant Marketing in Java* は東部ジャワの Brantas 河岸にある人口1万8000の町で Modjokuto と仮称された小さな町における具体的な農民の市場取引をとりあげて、ジャワ人社会におけるこの問題の一般的な姿を追求している。すなわち、Dewey はこのことについて、「ジャワの東中部における特殊な市場を調査して、私はより広い関係に市場制度全体を、取引のパターンと農民社会の社会経済的なパターンとの間の、機能的な関係を示して、関連づけることを試みた」とのべている。この意味においても、農民の生活に密着している市場取引についてこの研究のように深く掘り下げた成果はこれ以前にはなかった。戦前のオランダ人の成果は村落共同体の機能、あるいは慣習 (Adat-isti-adat) と慣習法 (Adat Recht) の研究が主体であり、また村落内の authority と leadership の研究が中心で、村落にすむ農民の生活の一端をとらえて分析したものは非常に少ない。わずかに1904年に発表された C. Th. Van Deventer の *Overzicht van den Economischen Toestand der Inlandche Bevolking op Java en Madoera*, (注、この論文は *Indonesian*

Economics-Selected Studies on Indonesia by Dutch Scholaks, 1961 に英訳がのっている)。あるいは、最近では H. Ten Dam の論文、"Coopereren Vanuit het Gezichtspunt der Desastructuur in Desa Tjibodas", *Indonesië*, IX (1956), 89~116 pp.

これらの文献も直接農民の市場取引にはふれていない。この種の研究がないことについて Dewey はその理由を二つあげている。その一つは経済学者の側からは農民市場取引は低開発地域が提起している比較的大きな問題にくらべてあいまいであり、また重要でないと考えられているからであること、さらに殊に資料の収集が非常に難しいことが問題を一層取りあげにくくしていることを指摘している。また他方、人類学者の側からも忘れられていることを指摘して、従来人類学者は大体において文化的に原始的な民衆の生活を対象とした。しかしより大きな農民社会の研究が重要になってきたとき、理論的考察と実際の限定とから村落を対象とすることが望ましいようになった。ここに Dewey がこの問題をとりあげようとしているという彼女の意図を明らかにしている。

したがって、この研究は社会そのものの研究ではなく、社会での活動の型、流通交換およびその社会に参加している民衆についての研究であるとその意図を明らかにしている。殊に各種の社会を結びつける重要なメカニズムの一つとしての市場に焦点をおいて個々の単位の性質、ならびに個々の単位の間結びつきを明らかにすることを研究の第1の目的とし、農民社会における経済組織の相互依存関係の研究を第2の目的とし、ジャワ人商人の型とより資本家的な華僑、インド人、アラブ人およびオランダ人との関係の分析を第3の目的としている。

IV

次にこの調査にはどのような方法が適用されるか。すなわち、原始的な社会および農民の社会の経済の分析に西ヨーロッパ経済に適用される基本原則を使うべきか否かの問題。この問題は Dewey によると十分に検討されたということである。そして Dewey はインドネシアの農民経済を研究する場合の古典的名著といわれるオランダの学者 J. H. Boeke の学説の検討からはじめ、*Economics and Economic Policy of Dual Societies as Exemplified by Indonesia*, 1954 と *Dorp en Desa*, 1934, の二つの代表作にあらわれた Boeke の理論を批判している。この批判は Boeke の村落共同体の把握の仕方について問題にしている。かれの理論のなかにあらわれる「共

同体的な原則の第2の決定要素は生存のための農業である」あるいは「市場のための農業生産は純粋の東方型の村落にまったく相いれないものである」、「生存のための農民が村落生活の特徴である」、「村落は自然的共同体である」等々の規定の仕方について Dewey は異論をもち、実体調査の結果はこの見解に對立するとのべている。そして Boeke が「純粋の東方型の村落」について提起していることは高度に理想化された共同体の姿であって、このようなものが存在しないことは Boeke も知っていたはずであるとのべている。この問題について補論としてでなく、本論でもっと深く追求されるならば、この成果の意義はさらに大きくなったともいえる。

V

この論文の意図しているところはその表題のようにジャワにおける農民の流通機構についての分析である。構成を大別すると、前半において農民の経済生活における市場取引の構造、後半で農民の市場取引の実体調査と、農村の手工業、家内工業と市場との関係を中心とした農村工業製品の流通関係の実体調査を発表している。

前半の総論的な部分は、農民経済体系における内部市場の性格、経済構造への社会的要素の影響、ジャワ人内部市場の構造——Modjokuto の中央市場——の3章である。

農民経済体系における部内市場の性格の章ではジャワ農民社会における経済生活に密着する市場の性格についての分析である。冒頭において人口の大部分を占める農民の経済生活にもっとも密接な関係をもつのがこの研究の対象である市場——インドネシア語ではオランダ語から転化した Pasar である。この Pasar はジャワに限らずインドネシア全域にみられ、大は Djakarta, Surabaya 等の大都市から小は小さな町——主としては副郡長の所在地——にいたるまで所在している。この Pasar という名で総称される市場は、狭域経済では一つの副郡を単位とした地域における農村とその近くの副郡長所在地市場との間の流通関係をもつ市場と、広域経済では、この小都市の市場とより広い地域の都市との間の流通関係をもつ市場のネットワークをつくりあげている。この研究は広域経済と狭域経済との流通の接点となる小都市の Pasar を対象として、両方の地域経済をとらえようとしているのである。

次に、ほかの国の同様な市場構造について Malaya, West Africa, Guatemala, における農民の流通経済につ

いての共通のパターンを求めている。

経済構造に対する社会的要素の影響の章では、社会的諸要素と時間、賃労働および現金の相互関係、経済構造へのジャワ人社会構造の影響、都市化の意義、華僑社会構造とその商慣習に対する関係等の基本的な問題を追求している。殊に経済構造へのジャワ人社会構造への影響と華僑社会構造とその商慣習に対する関係の項は、ジャワにおける流通機構の村落段階の零細な地域内の取引を担うジャワ人と比較的広域的に華僑社会を背景とする独自の流通機構をもつ華僑、この二つの種族の社会構造が経済構造に影響を及ぼしている諸要素をとりあげている。ジャワ人の場合には血族関係、村落社会構造、宗教、政治、階級の問題がとりあげられており、華僑社会の問題としては出身地別集団の結合関係を中心としてかれらの商慣習に対する態度に及んでいる。しかし、華僑についてはほとんどその大要をのべたにすぎない。華僑の問題はむしろ中部ジャワの北岸の Semarang の華僑を取りあげた Donald E. Willmott, *The Chinese of Semarang: A Changing Minority Community in Indonesia*, Cornell Univ. Press, 1960, 374 p. がすぐれた分析を行なっている(次の機会があれば紹介する)。

前述のジャワ人社会の記述のところで Dewey のグループの基本的な仮説である Santri と Abangan の理論を研究対象の Modjokuto の市場をめぐる社会環境にあてはめていることに注目しなければならない。Dewey は「ジャワ人は二つの主要な宗教区分の一に属す、すなわち、回教徒(Santri)と非回教徒(Abangan)」とのべている。Santri と Abangan を回教徒と非回教徒と強い区別の仕方をしていることが他の同じグループの人と異なっている。Dewey は Abangan をジャワ人の宗教である Agama Abangan の信奉者としている。この Agama Abangan は Animism, Hinduism, Buddhism および Islam が混合したもので、これらの諸要素が個人の信念によっていろいろな方法で結びついたものであると定義している。前述の C. Geertz の分類といささかニュアンスを異にしている。

Modjokuto に住む住民の約3分の1が商業に従事しているが、かれらは階級的には上流階級に入らないことを指摘している。Dewey によると、上流階級は政府職員、教師、警察官、軍人および労働組合、政党、各種団体等の指導者であって、その基準はかれらが教養があり、進歩的であり、さらに民族的な近代的な生活形態に順応している、ということにおいているのである。このカテ

ゴリーに商人階級が入ってこない。

商人階級は市場にはたらく商人はエリート・グループに入らない、しかし、富裕な市場商人は市場内での別個の高い尊敬される subclass を構成する、とのべている。この種商人には Batik (更紗) を扱う富裕な商人が入る。これに対して零細な商人は数は非常に多いが、グループとしての強い団結を持たず、また文字を知る者は少ない。しかし政治意識は高まりつつあるが、一般には積極性にとぼしい、伝統的な世界にとじこもっている人々である。これらの零細な商人は血縁の紐帯にもとづく農業社会の統一をもたない社会を構成している、とのべている。

VI

以上が、Modjokuto をめぐる経済の基本的な問題をとあげた部分であって、以下に 5 日市制とそれに関係した事項、市場における対人関係についてのべている。

さらに Modjokuto の市場を中心として観察した交換のパターンと商人の型について総論的にのべてから、特に商人の型と取引について細かい説明を展開している。すなわち、小規模取引、大規模取引、園芸作物その他食料品取引の各章においてそれぞれの型について、次に市場と密着して生活し、またこの市場を通じて消費者大衆との結びつきをもって市場の一隅に必ず居る食物屋、職人の生活、さらに農村家内工業の製品、加工品の取引について女性らしい細かな調査の結果を発表している。

そしてこの市場における取引は仲介人としての bakul の役割と機能を中心として、前述した三つの取引についての説明が行なわれているのである。

Dewey はこの bakul を中心とした市場商人の型について次の六つの型を定義している。すなわち、(1)「第 1 段階運搬人」、(2)「仲介人」、(3)「第 2 段階運搬人」、(4) Makelar (ブローカー)、(5) 二輪牛車所有者および oplet (小型乗合バス) 所有者、および(6) 行商人である。第 1 段階運搬人は農家の庭先から集荷運搬を行なう商人のグループである。仲介人は第 1 段階運搬人が集荷運搬して市場に搬入した農作物および農村工業製品の買取りおよび巡回商人、工場代理人、輸入代理店、華商から製造工業製品の買取り、およびこれらの買取り商品の卸売りを行なう、ジャワ語で Bakul とよばれる。第 2 段階運搬人は bakul から卸売り商品を買取り、他の市場へ運搬してその bakul に売り付けることを行なう商人である。Makelar は村落内の農産物の買付け、買付けた商品の貯蔵、他市場への輸送を行なう。ジャワにおける村落内の

取引の大部はかれらが行なっている。二輪牛車所有者、小型乗合バス所有者は商品輸送のために車輛の賃貸を行なう。小商人は bakul、運搬人、華商、工場代理人から商品を買って農村の戸口行商を行なう。

これらの 6 種の商人と運搬業者が市日に市場に出入して商品の売買を行なう。その取引の規模により小規模の各様のパターンがみられる。小規模取引ではその代表的なものが農村における米以外のすべての農産物 (polowidjo) の取引であり、これを取扱う bakul の実体について明らかにしている。

大規模取引という言葉についての Dewey の限定によると、全面的に市場内取引であり、また常に重要な換金作物の卸売り取引であると規定している。この章のなかで取引の量の変化という節において、Dewey はジャワ人の市場における位置について、「取引が小規模から中規模にさらに大規模へと変化するとその経営はジャワ人に残されるものが減少する。しばしば最大規模の取引では集荷、加工、品種付け、包装のはじめの段階だけをジャワ人が担っている。戦前はこの仕事の多くは華僑あるいは華僑のために働くジャワ人によって行なわれたものであったが、現在はジャワ商人に移される傾向が強まっている。そして市場内段階のみが華商の手にある。」と戦後の経済ナショナリズムの高揚によって華僑が地方市場で後退しその実権がジャワ商人に移りつつあることを述べている。このことはインドネシアにおける民族資本の形成が末端段階においても逐次進行しつつあることを物語っているとみることができよう。

また華商がこの末端段階の市場で一般的には後退しつつある姿をとらえ、また一面には華僑がその残った分野においてなお大規模な取引の担い手であることを明らかにして華僑の経済力が依然として強いことを物語っている。

市場で取引される商品のうち農村から出荷される物以外の小工業製品、輸入商品の取扱い商人について論文の最後の部分でとりあげている。小工業製品の製造の担い手が華僑であることをあげている。殊にジャワ人の生活に密着した Java Batick が華僑資本によってジャワ人の賃金労働によって作られるものである。この製品が末端の市場に入るときいくつかの方法でジャワ人の bakul の手をへて消費者に売られる過程を明らかにしている。

論文の最後の部分におけるいま一つの課題は市場に寄生する職人、飲食店、行商等の零細な業者の実体を簡単に説明している。ジャワ語で tukang とよばれる職人に

は仕立屋、床屋、金属職人、革職人、靴屋、大工、自転車修理工等の職人がその材料を手に入れる場として、またその作品を売る場としての Pasar に寄生している姿を分析している。そしてこれらの職人の大部分が社会的・経済的に貧困なグループに入るものであると述べている。

VII

以上で Dewey のジャワの農民生活をめぐる商品の流通を中心とした研究についての、いたって概括的な紹介を終わることとする。この Dewey の研究に密接な関係のある C. Geertz について簡単にふれることとする。

C. Geertz の前述の労作の一つである、*The Social Context of Economic Change: An Indonesian Case Study* にあらわれた “The Market Sector” の項における Modjohuto の町における商業階級の分類との関連にふれる。Geertz は町全体を一つの Pasar と考えて商業取引関係の全ネットワークにおける四つのグループ、すなわち、(1)奢侈的な繊維製品 (Batik) 商人の小グループ、(2)半職業的な農村あるいは町の小規模商人のグループ、(3)職業的な商人グループ、(4)華商をあげている。この研究は前述の Dewey の研究の対象であった(2)および(3)を包含していることはもちろんである。この Geertz の研究にあげられた四つのグループの中の二つのグループ、すなわち、(1)のバティック商人と(2)の華商について、

直接の研究対象でないために深く掘りさげなかったのかもしれないが、ジャワ商人と華商の関係についての一段深い研究が望ましかった。

このことは、この研究の中ごろで取りあげられているが、論文の最後の項における「商業パターンの意義」の項にあらわれているジャワ商人が卸売換金作物取引引きにおいて華商の競争相手として出現するにいたったと述べているように、ジャワ商人の資本蓄積が進行し、華商にとって強い競争相手となろうとしている事実があるからである。

Dewey はこれについて、さらに「ジャワ商人が資本を蓄積し、大規模卸売を行なうように組織されると、ジャワ商人は輸入業者に直接取引引きでき、また卸売価格で大量商品の購入ができ、これによって利益マージンを削減せずに華商と競争できた」と述べている。これは1950年以後のいわゆる Benteng 方式による民族資本による輸入業者育成の政策と関連があることで、政府の民族資本育成政策が大は貿易商の段階から下は農村商人にいたるまでに漸次浸透しつつあることを物語っているといえる。

華僑の研究についてもこの点からの分析が少ないのであるから、これが追求されたら非常に貴重なものである。もちろん、この研究が対象とする農村、小都市のジャワ商人の研究も貴重であるが。

(アジア経済研究所調査研究部専門調査員 岸 幸一)

マラヤ・シンガポールの経済開発

—— 調査研究報告双書 第29集 ——

松 尾 弘 編

第1章 経済開発の背景.....	清水川 繁 雄
—— 政治的要因・経済的要因・社会的要因——	
第2章 経済開発の特徴.....	松 尾 弘
—— 戦後初期の開発計画・本格的経済開発の準備・マラヤ連邦の第1次5カ年開発計画 総説・第1次5カ年開発計画各説・シンガポールの経済開発・開発計画の特徴——	
第3章 経済開発の進捗状況.....	山 岡 喜 久 男
—— 第1次5カ年計画進捗状況総説・第1次5カ年計画進捗状況各説・第2次5カ年計 画・第2次5カ年計画をめぐる国会の論戦・シンガポールの4カ年開発計画——	
第4章 経済開発上の問題点.....	松 尾 弘
—— 問題のとりあげ方・多民族社会と多民族経済の国・マレー人の伝統的社会と「飛躍」 への問題点・華僑資本の性格と「飛躍」への問題点・マラヤ経済における外国資本 と資本流出の問題——	
第5章 経済開発における対外関係.....	吉 村 泰 明
—— 経済開発における対外関係の歴史・経済開発における欧米との関係・経済開発にお ける日本との関係・経済開発における対外政策——	
第6章 マラヤ鉱産資源開発論.....	大 岩 泰
—— 序論・マラヤ鉱山業概説・戦後における客観的基礎的条件の変化・長期経済開発計 画と鉱産資源の開発・マラヤ地区鉄鉱石資源開発論・結論——	